

けて行ったという事は、もっとずっと深い意味があって、それでそれだけの事をやっている良さがあるというのを、きちんと僕は言葉にして言うべきだという気がするのです。だから、まずい事もいい事もどれもあるけれど、みんな何でも黙って下を向いて、通り過ぎるのを待っているような時代ではなくなったのが、今から10年くらい前、本当はターニングポイントを日本は超えたのだという気がするのです。ですから、人の命を救う一番大事なのは何かと言ったら、本当は先ほど言ったようなシミュレーションができた時にそれをきちんと早く発表する事なのです。それも、ある一箇所の所だけじゃなくて、ある程度の発生確率になっていると思うものは、どんどん情報をこれから作って、オープンにするという覚悟をするのが、本当に大事なのではないでしょうか。箱物行政とか何だとか、建物造った、何を造っても物を造った所にも、堤防を造ってもお金がかかるけれども、本当はコンピューターグラフィックを作ってもいっぱいお金がかかるのですよ。だけど、社会としては、違うところに本当にそのお金が動いていって、そしてその社会が安全になる方向に行くのなら、堤防をつくるお金をコンピューターグラフィックスを作るお金に回したら、社会全体の雇用としてはずいぶん良い循環が別のところで起こり出すと思います。ですから、それはあるところから覚悟を決めて、始めるのが大事だと思います。

【小出】 非常ににが情報でもはっきりと言ってしまうと。最初に有珠山の例がありましたけれども、昔からあそこは、山の麓の海の事を噴火湾というのですよ。この辺はしょっちゅう噴火するぞという事を住民の人は重々承知。ところが今は、違う地域は別の名前の湾に変えてしまうわけです。噴火湾という名を持つ、そのものずばりの海です。それでも、それじゃあ誰も来ないだろうと、何か、しゃれた名前にしてしまうと。それをずばっと正しい情報を昔から与えている。情報というのはそういう事もしょっちゅうあるのだという事を、情報の受け皿の方が、サプライヤの論理じゃなくてユーザーの論理でちゃんと消化されているというのが一つある。

それから、成熟してきたなと思うのは、最近の企業のミスの

場合。最近名古屋企業の何とかガス器具とか、それから何とか自動車とか、いろいろと続いているわけですが、1年前にナショナルのファンヒーターの大変な問題があった。でも、あれで松下がすごいなと思ったのは、その年の利益ゼロでもいいから、それだけの経費を投入して謝罪と信頼回復をやる。それもとことんやっているのです。テレビでもしょっちゅうやる、新聞もいっぱいです。大変なミスなのですが、結果的に許されている。ナショナルは信用できるというのが強くなったのです。それで、これまでの日本は、ある意味で、ミスをするといけない事だというのが条件反射的なヒステリーがあったのですが、徐々に成熟社会になってきて、野球だってミスしない選手はベンチにおる選手だということがようやくわかってきた。問題はミスした時の対応が問題で、隠そうとしたとたん、その企業は駄目です。それは雪印もそうです。三菱自動車も以前そうでした。隠そうとする事で一気にもうガガツとなるのです。ですから、これはミス自体よりも隠すという狡さがいけないというのは、本当に前の精神風土からもう一段階上の非常に成熟した段階になってきた。だから隠すのではなくて正直に情報を与える。まずい情報でも与えると、それを許す精神風土が出てきたという気はします。



【畑村】 事故を起こしたり失敗をしたりした時、当事者というのは、すごくつらいのです。つらいのは何故かという、自分は事故も失敗も認めたくないのです。誰のせい、誰が悪いとかそれより前に失敗だと認めること自身がものすごくつらいから、失敗だと認められないのです。そうすると、たとえば、リコールのような時に、ぼつんぼつんと起こるのです。僕はここで初めてこん